

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-201645

(P2009-201645A)

(43) 公開日 平成21年9月10日(2009.9.10)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 77/14 (2006.01)	A 4 7 B 77/14	3 B 0 6 0
A 4 7 B 77/04 (2006.01)	A 4 7 B 77/04	Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2008-45754 (P2008-45754)	(71) 出願人	000108661
(22) 出願日	平成20年2月27日 (2008. 2. 27)		
		(74) 代理人	110000280
			特許業務法人サクレスト国際特許事務所
		(72) 発明者	宮島 均
			大阪府大阪市城東区鳴野東 1 丁目 2 番 1 号
			タカラスタンダード株式会社内
		(72) 発明者	中原 勝久
			大阪府大阪市城東区鳴野東 1 丁目 2 番 1 号
			タカラスタンダード株式会社内
		(72) 発明者	林 優花
			大阪府大阪市城東区鳴野東 1 丁目 2 番 1 号
			タカラスタンダード株式会社内
		F ターム (参考)	3B060 EC02 JA01 JA02

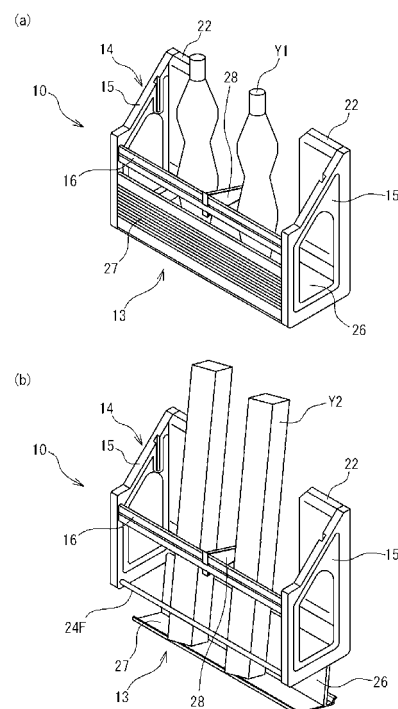
(54) 【発明の名称】 収納棚

(57) 【要約】

【課題】 収納物の背の高さに応じて収納棚の棚の高さを切り換えることができる収納棚を提供する。

【解決手段】 収納棚 10 は、壁面に取り付け可能な棚枠部材 14 と、収納物 Y1、Y2 を下方から支持するために棚枠部材 14 に取り付けられる棚部材 13 とを備える。棚部材 13 は、より高位置の第 1 の姿勢で収納物 Y1 を載置可能な第 1 の棚部 26 と、より低位置の第 2 の姿勢で収納物 Y2 を載置可能な第 2 の棚部と、当該棚部材 13 の棚枠部材 14 に対する取り付け状態を第 1 の姿勢又は第 2 の姿勢のいずれか一方に切換可能な棚取付部 29、30 と、を有する。

【選択図】 図 2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

壁面に取り付け可能な棚枠部材と、収納物を下方から支持するために前記棚枠部材に取り付けられる棚部材とを備えている収納棚であって、

前記棚部材は、

より高位置の第 1 の姿勢で前記収納物を載置可能な第 1 の棚部と、

より低位置の第 2 の姿勢で前記収納物を載置可能な第 2 の棚部と、

当該棚部材の前記棚枠部材に対する取り付け状態を前記第 1 の姿勢又は第 2 の姿勢のいずれか一方に切換可能な棚取付部と、を有することを特徴とする収納棚。

【請求項 2】

10

前記第 1 の棚部と前記第 2 の棚部とが互いに直角をなすように連結されており、

前記第 1 の姿勢において、前記第 2 の棚部が前記第 1 の棚部から上方向に延びるように縦向きに配置されることを特徴とする請求項 1 に記載の収納棚。

【請求項 3】

前後一对の被係合部が、前記棚枠部材の下部に前後方向に間隔をあけて設けられ、

前記棚取付部が、後側の前記被係合部に着脱自在な後係合部と、前側の前記被係合部に着脱自在な前係合部とからなり、

前記後係合部が、前記第 1 の棚部の後側端部に形成され、かつ、前記前係合部が前記第 1 の棚部の前側端部に形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の収納棚。

【請求項 4】

20

前記第 2 の姿勢において、前記第 2 の棚部の姿勢を前上がり傾斜状に設定する姿勢設定部が、前記棚部材に設けられていることを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 つに記載の収納棚。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、例えばシステムキッチンに設置された有効高さの大きい引き出しの扉に取り付けて使用される収納棚に関する。

【背景技術】

【0002】

30

システムキッチンにおいて、シンクの下方やガステーブルの下方には、鍋やフライパン等の比較的大きな調理器具を収納可能な有効高さの大きい引き出しが設けられている。下記特許文献 1 には、この引き出しの上下方向の寸法が大きいことを利用して、背の高い収納物を収納することができる収納ポケットを引き出し内部に設けることが開示されている。

【特許文献 1】特開 2004-290420 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

40

特許文献 1 記載の収納ポケットは、細長い食品包装フィルムの箱や、オタマやフライパン返し等の寸法の大きな調理器具を立てた状態で収めるのに好都合である。しかし、ユーザによっては調味料容器等の背の低い収納物を収納ポケットに収める場合もある。特許文献 1 記載の収納ポケットは、背の高い収納物を入れることを想定して低位置に設けられるため、背の低い収納物を収めると、出し入れのために腰を屈めなくてはならず、ユーザの負担が大きくなる。

【0004】

背の低い収納物を出し入れし易くするため、収納ポケットを高い位置に取り付けることも考えられる。しかし、これでは、背の高い収納物を収めたときに収納物が引き出しから上方へ突出してしまい、扉を閉じることができなくなるという不都合が生じる。

【0005】

50

本発明は、以上のような実情に鑑みてなされたものであり、収納物の背の高さに応じて収納棚の棚の高さを切り換えることができる収納棚を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、壁面に取り付け可能な棚枠部材と、収納物を下方から支持するために前記棚枠部材に取り付けられる棚部材とを備えている収納棚であって、

前記棚部材は、

より高位置の第1の姿勢で前記収納物を載置可能な第1の棚部と、

より低位置の第2の姿勢で前記収納物を載置可能な第2の棚部と、

当該棚部材の前記棚枠部材に対する取り付け状態を前記第1の姿勢又は第2の姿勢のいずれか一方に切換可能な棚取付部と、を有することを特徴とする。

【0007】

この構成によれば、収納棚に背の低い収納物を収納する場合には、棚枠部材に第1の姿勢で棚部材を取り付ける。これによって、より高い位置に第1の棚部が配置され、背の低い収納物の出し入れが容易となり、ユーザの負担を軽減することができる。また、収納棚に専ら背の高い収納物を収納する場合には、棚枠部材に第2の姿勢で棚部材を取り付ける。これによって、より低い位置に第2の棚部が配置される。そのため、例えば引き出し内に収納棚を設けた場合に、引き出しの開閉の邪魔となることなく背の高い収納物を収納することができる。

【0008】

上記の構成において、前記第1の棚部と前記第2の棚部とが互いに直角をなすように連結されており、前記第1の姿勢において、前記第2の棚部は前記第1の棚部から上方向に延びるように縦向きに配置されることが好ましい。

この場合、第2の棚部は、第1の棚部から上方向に延びる壁として機能し、第1の棚部上に載置された収納物の移動（例えば、第1の棚部からの落下）を制限することが可能となる。

【0009】

前後一对の被係合部が、前記棚枠部材の下部に前後方向に間隔をあけて設けられ、前記棚取付部が、後側の前記被係合部に着脱自在な後係合部と、前側の前記被係合部に着脱自在な前係合部とからなり、前記後係合部が、前記第1の棚部の後側端部に形成され、かつ、前記前係合部が前記第1の棚部の前側端部に形成されていることが好ましい。

この構成によれば、前後の係合部をそれぞれ前後の被係合部に係合させることによって、第1の姿勢で棚部材を棚枠部材に取り付けることができる。また、後側の被係合部に後係合部のみを係合させるか、又は前側の被係合部に前係合部のみを係合させることで、第1の姿勢に対して90°回転した第2の姿勢で棚部材を棚枠部材に取り付けることができる。

【0010】

前記第2の姿勢において前記第2の棚部の姿勢を前上がり傾斜状に設定する姿勢設定部が、前記棚部材に設けられていることが好ましい。これによって、第2の棚部に載置された収納物が後方へ傾きやすくなり、当該収納物が前方へ倒れるのを防止することができる。

【発明の効果】

【0011】

本発明によれば、収納物の背の高さに応じて棚の高さ（深さ）を変更することができる。したがって、ユーザの用途に応じて利用しやすい収納棚を構成することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

図1は、本発明の実施の形態に係る収納棚10の分解斜視図である。本実施の形態の収納棚10は、システムキッチン等に設けられた有効高さの大きい引き出しの扉11の内壁

10

20

30

40

50

面に取り付けて使用される。なお、本明細書では、収納棚 10 を正面から見たときの手前側を前側とし、扉 11 に取り付けられる側を後側としている。図 1, 図 3, 図 4 には、前方に相当する方向を矢印 F で示してある。

【0013】

収納棚 10 は、棚部材 13 と、棚枠部材 14 とを備えている。棚枠部材 14 は、左右の側壁部 15 と、前壁部 16 とを備えている。左右の側壁部 15 と前壁部 16 と扉 11 の内壁面とで囲まれた空間が、収納物の収納空間とされる。

側壁部 15 は、合成樹脂製又は金属製の板材からなり、中央部には左右方向に貫通する開口 18 が形成されている。側壁部 15 の上縁は前下がり傾斜状に形成されている。側壁部 15 の内側面には、上縁から下方に延びる凹溝 19 が形成されており、この凹溝 19 には、収納棚 10 内を前後に仕切る仕切りバー 20 が着脱可能に取り付けられている。

10

【0014】

側壁部 15 の後端部には、収納棚 10 を扉 11 の内壁面に取り付けるための取付部 22 が左右内方に向けて延設するように一体形成されている。取付部 22 は、磁石、吸盤、ネジ、又は、これらの組み合わせによって扉 11 の内壁面に取り付けられる。

前壁部 16 は、左右の側壁部 15 の前端縁上部に架設されている。前壁部 16 は、金属製又は合成樹脂製の板材からなり、上下方向の寸法よりも左右方向の寸法が大きい帯形状に形成されている。前壁部 16 の上下方向の寸法は側壁部 15 の上下方向の寸法よりも小さく、前壁部 16 の下側において、左右の側壁部 15 の間が前方に開放されている。

【0015】

20

左右の側壁部 15 の下端部には、前後一对の連結バー 24 F, 24 R が架設されている。左右の側壁部 15 は、前壁部 16 と連結バー 24 F, 24 R とによって相互に連結されている。連結バー 24 F, 24 R は、金属製又は合成樹脂製の中空又は中実の棒材であり、本実施の形態では、断面円形状の丸棒材が用いられている。この連結バー 24 F, 24 R は、後述するように棚部材 13 が取り付けられる被取付部（被係合部）として機能する。

【0016】

棚部材 13 は、合成樹脂製又は金属製であり、長方形の板形状に形成された第 1 の棚部 26 と、長方形の板形状に形成された第 2 の棚部 27 とを備えている。第 1 の棚部 26 と、第 2 の棚部 27 とは、短手方向の一端部同士（長辺同士）が連結され、L 字形状をなすように直交している。

30

本実施の形態の棚部材 13 は、第 1 の棚部 26 を使用する第 1 の姿勢（図 2（a）参照）と、第 2 の棚部 27 を使用する第 2 の姿勢（図 2（b）参照）とに切替可能に棚枠部材 14 に取り付けられる。なお、図 2 において、前壁部 16 には、収納棚 10 内を左右に仕切る仕切り板 28 が左右方向にスライド可能に取り付けられている。

【0017】

図 3 は、棚枠部材 14 に第 1 の姿勢で棚部材 13 を取り付けた場合の収納棚 10 の縦断面図である。第 1 の棚部 26 の短手方向（前後方向）の両端部の下面には、前後一对の係合部（棚取付部）29, 30 が設けられている。後係合部 29 は、下方に開口した断面略 C 字状に形成され、後側の連結バー 24 R に対して上側から係合（嵌合）される。前係合部 30 は、第 1 の棚部 26 の前端縁から下方及び後方へ延びるように略 L 字形状に形成されている。前係合部 30 と第 1 の棚部 26 とによって後方へ開口した断面略コ字の溝が形成され、この溝内に前側の連結バー 24 F を収めるようにして、前係合部 30 が当該連結バー 24 F, 24 R に係合される。なお、前係合部 29 及び後係合部 30 は、棚部材 13 の左右方向の全幅に亘って形成されているが、幅方向の複数箇所（例えば両端と中央等）に形成されていてもよい。

40

【0018】

第 1 の棚部 26 は、前後の連結バー 24 F, 24 R 上で前後方向に沿うように横向き姿勢で配置され、第 2 の棚部 27 は、第 1 の棚部 26 の前端部から上方へ向けて延び、縦向き姿勢で配置されている。この第 2 の棚部 27 は、前壁部 16 の下側で、前壁部 16 と略

50

同じ前後位置に配置されている。したがって、棚部材 1 3 を第 1 の姿勢とした場合、第 1 の棚部 2 6 が実質的な棚として機能し、第 2 の棚部 2 7 は、前壁部 1 6 の下側開放部分を塞ぐ壁として機能している。

【0019】

図 4 は、棚枠部材 1 4 に第 2 の姿勢で棚部材 1 3 を取り付けした場合の収納棚 1 0 の縦断面図である。第 1 の棚部 2 6 に形成された後係合部 2 9 は、後側の連結バー 2 4 R に係合しているが、前係合部 3 0 は、前側の連結バー 2 4 F に係合していない。そして、棚部材 1 3 は、後側の連結バー 2 4 R にぶら下がった状態で連結されている。したがって、棚部材 1 3 の第 2 の姿勢は、第 1 の姿勢から後側の連結バー 2 4 R を中心に下方へ略 90 度回転した姿勢となっている。なお、棚部材 1 3 を第 1 の姿勢から第 2 の姿勢に変更する場合、棚部材 1 3 の前係合部 2 9 及び後係合部 3 0 を一旦連結バー 2 4 F, 2 4 R から取り外し、棚部材 1 3 の後係合部 2 9 を後側の連結バー 2 4 R に連結する。

【0020】

第 1 の棚部 2 6 は、後側の連結バー 2 4 R から下方向へ向けて延び、縦向き姿勢で配置されている。また、第 2 の棚部 2 7 は、第 1 の棚部 2 6 の下端から前方向へ向けて延び、前後方向に沿うように横向き姿勢で配置されている。したがって、第 2 の姿勢では、第 2 の棚部 2 7 が実質的な棚として機能する。第 1 の棚部 2 6 は、棚枠部材 1 4 の下方に所定間隔をあけて第 2 の棚部 2 7 を配置した状態で連結バー 2 4 R に連結させるための連結部材として機能している。第 2 の姿勢における第 2 の棚部 2 7 は、第 1 の姿勢における第 1 の棚部 2 6 よりも低い位置に配置されている。

【0021】

棚部材 1 3 を第 2 の姿勢とした場合、前係合部 3 0 が扉 1 1 の内壁面に当接し、第 2 の棚部 2 7 は、やや前上がり傾斜状に配置されるように姿勢が保持されている（水平方向に対する第 2 の棚部 2 7 の傾斜角度を θ で示す）。すなわち、第 2 の姿勢において、前係合部 3 0 は第 2 の棚部 2 7 の姿勢を前上がり傾斜状に設定する姿勢設定部として機能している。前係合部 3 0 の後端には、後方へ突出（屈曲）して内壁面に当接する当接部 3 2 が形成されている。

【0022】

以上の構成において、棚部材 1 3 を図 3 に示すように第 1 の姿勢とし、第 1 の棚部 2 6 を使用した場合、背の低い収納物（例えば、調味料容器 Y 1 等）の出し入れを容易に行うことができる。しかし、この場合、食品包装用フィルムの箱のように背の高い収納物 Y 2 を収納すると、図 5 に示すように、当該収納物 Y 2 が扉 1 1 よりも上方に突出し、引き出し 9 を閉めることができなくなる。

したがって、専ら背の高い収納物 Y 2 を収納する用途で収納棚 1 0 を使用する場合には、図 4 に示すように棚部材 1 3 を第 2 の姿勢とし、第 2 の棚部 2 7 を使用する。これによって、引き出しの開閉を妨げることなく背の高い収納物 Y 2 を収納することが可能となる。

【0023】

図 3 に示すように、棚部材 1 3 を第 1 の姿勢とした場合、第 2 の棚部 2 7 は前壁部 1 6 の下側開放部分を塞ぐ壁として機能しているので、収納物 Y 1 の落下を防止することができる。

図 4 に示すように、棚部材 1 3 を第 2 の姿勢とした場合、第 2 の棚部 2 7 は前上がり傾斜状に配置されるので、第 2 の棚部 2 7 によって支持された収納物 Y 2 は扉 1 1 の内壁面に凭れるような姿勢となる。そのため、当該収納物 Y 2 が前側に倒れるのを防止することができ、引き出しに対する調理器具等の出し入れの際に当該収納物 Y 2 が邪魔になるのを防止することができる。

【0024】

後係合部 2 9 や後側の連結バー 2 4 R は、棚部材 1 3 を第 1 の姿勢とした場合と第 2 の姿勢とした場合との双方で使用されるため、各姿勢用に個別の係合部や連結バーを設ける場合に比べて部品点数を少なくすることができ、製造コストを低減することができる。

【0025】

本発明は、上記実施の形態に限定されることなく適宜設計変更可能である。

上記実施の形態では、棚枠部材14に棚部材13を連結するための被係合部（連結バー24F、24R）が左右の側壁部15に亘る長さに形成されているが、当該被係合部は、左右側壁部15から左右内方へ突出する突起状に形成されていてもよい（この場合4個の被係合部が設けられる）。また、被係合部を突起状とする場合、左右側壁部15から左右外方へ突出するように形成することも可能である。この場合、第1の棚部26の両端よりも左右方向外側に前係合部30及び後係合部29を形成すればよい。

【0026】

第2の棚部27は、第1の姿勢において第1の棚部26の後端部から上方へ延びるように配置されていてもよい。この場合、棚部材13を第2の姿勢とするには、前側の連結バー24Fに対して前係合部30のみを係合させることによって、前側の連結バー24Fから下方に延びるように第1の棚部26を配置し、この第1の棚部26の下端から後方へ延びるように第2の棚部27を配置すればよい。

10

【0027】

収納棚10の棚枠部材14は、後壁部を備えていてもよい。収納棚10の棚枠部材14や棚部材13の材質は特に限定されるものではなく適宜変更することができる。また、棚枠部材14や棚部材13は、板形状に形成するに限らず、例えば、針金等によってメッシュ状に形成することもできる。

上記実施の形態の収納棚10は、引き出しの扉11の内壁面に取り付けて使用されているが、これに限定されるものではなく、例えば、引き出しの扉11の外壁面や他の厨房家具の扉（開き扉を含む）の内外壁面、冷蔵庫等の電化製品の外壁面、キッチンやリビング等の室内の壁面に取り付けて使用することも可能である。但し、本実施の形態の収納棚10は、引き出しの内部や天井付近の壁面等、高さの制限がある場所に取り付けて使用する場合により有用である。

20

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図1】本発明の実施の形態に係る収納棚の分解斜視図である。

【図2】（a）は、棚枠部材に第1の姿勢で棚部材を取り付けた場合の収納棚の斜視図、（b）は、棚枠部材に第2の姿勢で棚部材を取り付けた場合の収納棚の斜視図である。

30

【図3】図2（a）に示される収納棚の縦断面図である。

【図4】図2（b）に示される収納棚の縦断面図である。

【図5】図2（a）に示される収納棚に背の高い収納物を収納した状態を示す側面図である。

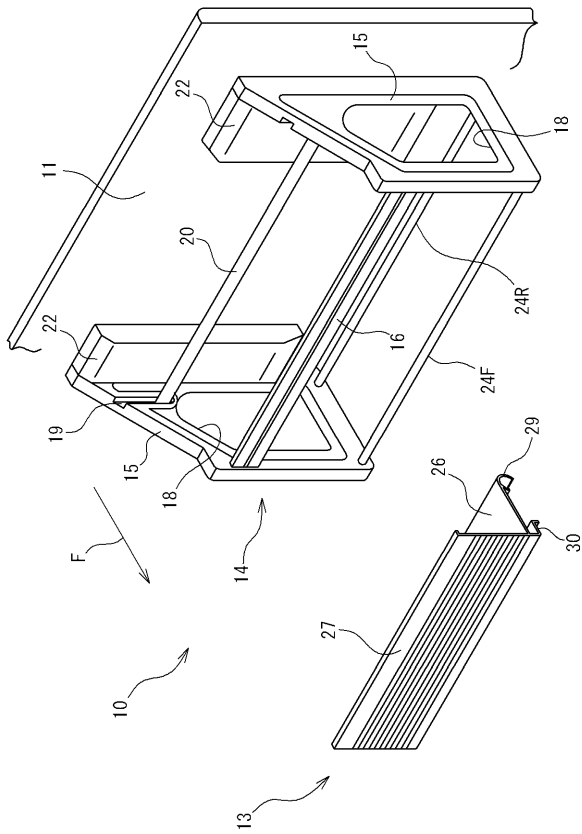
【符号の説明】

【0029】

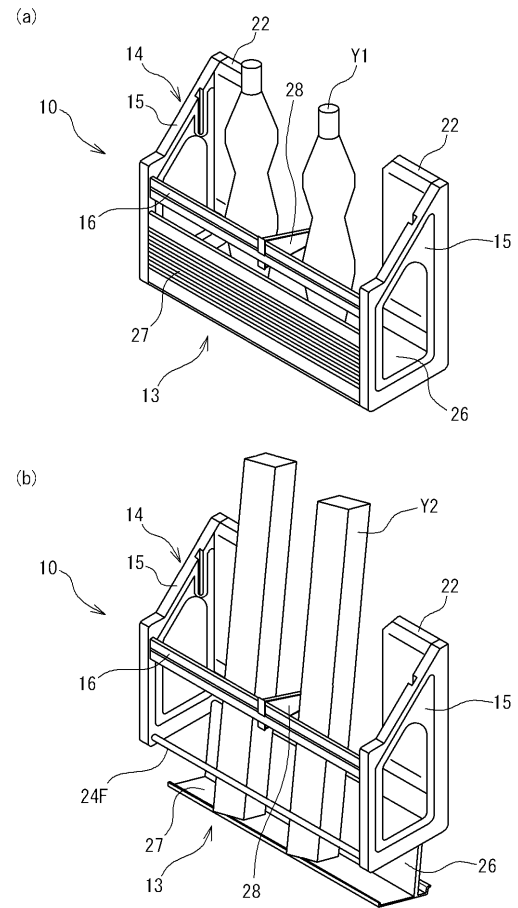
- 10 収納棚
- 11 扉
- 13 棚部材
- 14 棚枠部材
- 24F 前側の連結バー（被係合部）
- 24R 後側の連結バー（被係合部）
- 26 第1の棚部
- 27 第2の棚部
- 29 後係合部
- 30 前係合部（姿勢設定部）

40

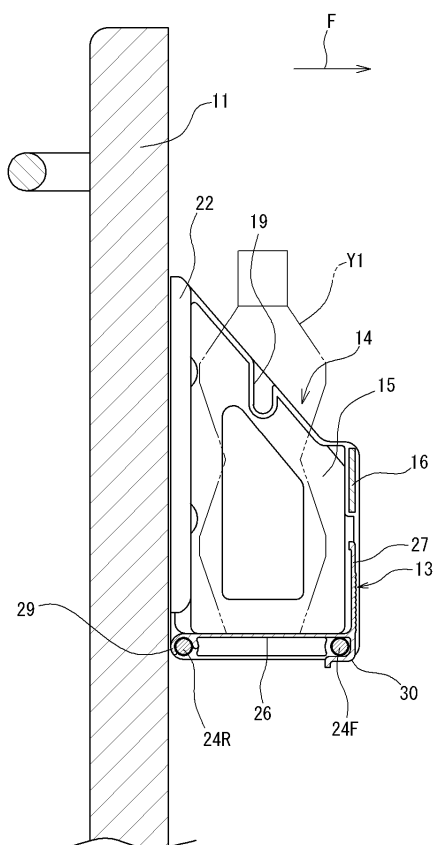
【図 1】



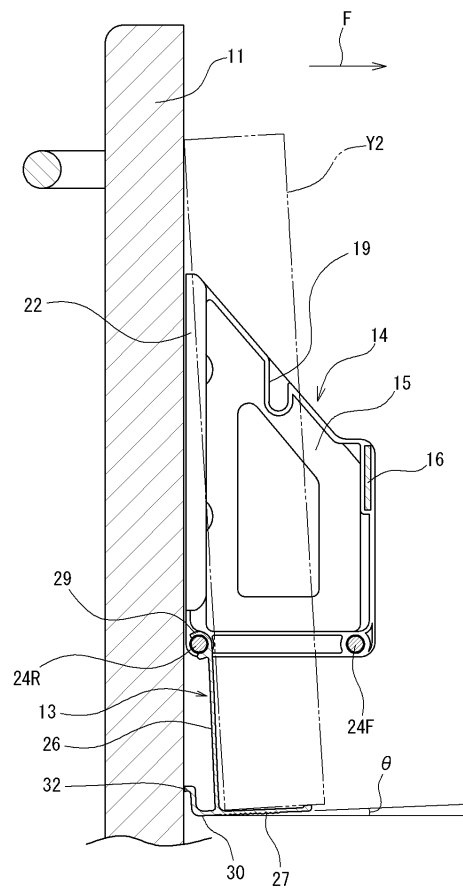
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

